



公益社団法人 埼玉県看護協会

さいたま Nursing



幸手権現堂桜堤 (県営権現堂公園) 利根支部

No. **135** 2023.4.22

特集 **ともに、つくる、「看護」**

職種間のタスク・シフト/シェアの推進

事例紹介 一葉削師・救急救命士・看護補助者一

4~6

- 令和5年度事業開始にあたって 2
- 2023年度(令和5年)研修申し込み開始 3
- 3.11メモリアル講演 3
- どこでも知事室 3
- 看護業務の効率化先進事例アワード2022 最優秀賞受賞 7
- 令和5年度 埼玉県看護協会通常総会 開催 8

会員数 **25,512**名 (2023.2.28現在)

保健師

416名

助産師

960名

看護師

23,585名

准看護師

551名

埼玉県看護協会ホームページ
<https://www.nurse-saitama.jp>



令和5年度事業開始にあたって

公益社団法人 埼玉県看護協会
会長 松田 久美子



会員の皆さまには、日頃より協会事業の推進について、ご理解・ご協力を賜り深く感謝申し上げます。3年間という長きにわたる新型コロナウイルスCOVID-19への対応は、5月8日の感染症法の改正施行を一区切りに新たな局面を迎えます。まだまだご苦労の日々が続きますが、医療・保健・福祉・介護・教育等、それぞれの場で懸命のご活動を継続いただき、心より敬意と感謝を申し上げます。

昨年11月人事院規則が一部改正され、国家公務員医療職俸給表（三）の級別標準職務表が改正されました。これは日本看護協会がコロナ禍で大きな役割を果たす看護職の賃金引上げを実現してきたことに続き、全ての看護職が対象となる処遇改善へ一歩近づいたことといえます。本会では3月に「賃金制度の抜本的見直しに関する勉強会」を開催し、多くの施設の方々と問題・課題を共有する機会となりました。労働供給制約社会といわれるなか、賃金から視線をそらしたままで看護職の確保はできないことを覚悟する必要があると考えます。

さて、令和5年度の事業は、重点事業4点、その他中期事業を掲げ、理事会でご承認いただき走り出してしております。詳細は、5月上旬にお届けする総会要綱をご確認ください。臨床心理士による「看護職のための心の保健室」は3年目となりますが、コロナ禍で疲弊した看護職のために継続して行うことといたしました。

さらに新年度、いよいよ新支部体制がスタートいたしました。平成2年から9支部体制となり、長きにわたって支部長を中心に地域の連携を図っていただきました。今年度より、重点事業「地域包括ケアを支えるための看護提供体制の推進」をさらに強化するため、支部編成を埼玉県二次保健医療圏に合致させ、会員の皆さま方に地域の保健・医療・福祉の中心として「看護の力」を発揮していただきたいと考えております。

役職員一同、新年度も立ち止まることなく、伝統を重んじつつチャレンジを試みてまいります。ご支援・ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

2023(令和5)年度 研修申し込み開始

多様化するヘルスケアニーズに応えるために、看護職のキャリア開発を支援する研修を企画しました。どのような社会情勢であっても学びを止めず、会員の皆様のご期待に応えることができるようにしました。

詳しくはタブロイド判「2023年度教育計画」をご確認いただき、マナブルよりお申し込みください。なお申込画面などがバージョンアップされる予定ですが、基本的な申し込み方法は変わりません。



<https://nurse-saitama.manaable.com/>

2023年度教育計画

一般研修	全130コース
認定看護管理者教育課程	<ul style="list-style-type: none">●ファーストレベル 2023年11月24日～2024年1月22日●セカンドレベル 2023年5月23日～7月27日●サードレベル 2023年8月25日～10月28日
その他	<ul style="list-style-type: none">●委員会企画研修●第17回埼玉医療安全大会 2023年11月11日(土)●第31回埼玉看護研究学会 2023年12月2日(土)

研修は3月にお送りしたタブロイド版とマナブルで必ずご確認ください

3.11メモリアル講演 「災害を考える」

開催日：令和5年3月11日(土) オンライン開催

災害看護対策委員 松浦千嘉子

「近年の気象災害について」日本気象予報士会埼玉支部の富川誠一氏に、埼玉県気象や近年発生している災害、知っておくべき情報を中心に解説していただいた。竜巻や台風による水害などは甚大な被害をもたらし、被災者の救護のみならず、交通遮断など身近な問題としてあげられた。気象災害は予測によって被害を最小限にとどめる事ができる「自助」を考える内容であった。

「地域における看護職の役割と活動」災害専門看護師であり「まちの減災ナース」である紫宇代氏から、自らが地域のコミュニティに積極的に足を運び、同じ生活者としての関係性を構築しておく重要性を学ぶ事ができた。

災害が起きた時の行動に目を向けがちであるが、起きる前の予測と備え、地域の方々との関係性の構築が重要と改めて考える貴重な機会となった。

12年目を迎えた陸前高田市から、トランペットの演奏というサプライズメッセージが届き、「3.11」を忘れてはいけないと深く心に響くものとなった。

大野元裕知事が 視察にみえました

2023年2月17日

令和4年度第4回「どこでも知事室」が埼玉県ナースセンターで開催され、無料職業紹介の現場や、採血・点滴の技術講習会を視察後に、再就職した看護職の方々、ナースセンター職員と意見交換を行いました。



▲大野知事、松田会長をかこんで。

職種間のタスク・シフト/シエア

事例紹介 — 薬剤師・救急救命士・看護補助者 —

小川赤十字病院

●病床数 252床 ●看護職約 250名 ●薬剤師数 16名



当院の薬剤部は、患者に安心・安全な薬物治療を提供できるよう業務に取り組んでいる。11名の薬剤師が病棟に常駐し、チーム医療の中で薬剤師の専門性が発揮できるよう努めている。

1日の仕事

※看護師と協働している業務

- 8:25 薬剤部内朝礼 病棟朝礼の参加
- 8:30 薬剤管理：注射薬の返品確認 向精神薬・麻薬・毒薬の確認 常備薬・救急カート薬の確認
- 9:00 情報収集：時間外に入院した患者の薬剤確認
退院患者への服薬指導・薬剤サマリー作成
入院患者の持参薬確認（持参薬鑑別書作成）
術前休薬が必要な薬剤の再確認・休業期間の再確認
薬剤の相互作用の確認 薬剤の重複の確認
配合変化等の確認
定期薬の配薬業務
安全性情報・相談応需
多剤併用に関する薬剤
調剤について医師・看護師と協議
必要時に病棟カンファレンスへ参加
- 13:00 払い出し注射薬の把握：払い出し注射薬の照合・確認
- 13:30 服薬指導：指導記録作成 薬剤サマリー作成
- 16:00 高カロリー輸液の調製後の監査・注射薬のセット・監査業務

看護師からの一言

看護副部長 増田 康予さん

薬剤師にはいつも協力していただいています。特に病棟薬剤師は、薬剤に関していつでも気軽に相談でき、後発薬や持参薬の重複投与などインシデント防止にも寄与してくれ、医師や看護師からの信頼も厚く、医療チームの中で欠かせない存在になっています。医師の働き方改革でも、薬剤師は重要な役割を担うと思います。



薬剤師

加茂下 淳子 さん

業務内容紹介

配薬業務は、薬剤師が全病棟の定期処方日に1週間分の内服薬をカートへセットし、看護師はセットした薬を服用確認票で確認して患者に配薬します。注射薬の照合と確認は、注射担



当薬剤師が注射用カートに注射薬を1施用ごとにセットして病棟へ払い出し、病棟看護師と病棟担当薬剤師がダブルチェックします。この時に投与量・経路・速度・配合変化などの情報を共有し、それぞれの立場でチェックすることによりエラーを防いでいます。病棟で発生した医薬品関連のインシデントは、それぞれの目線で議論・提案して対策を一緒に考えます。多剤併用に関する薬剤調整として、患者から減薬の希望があれば、医師・看護師と協議したうえで調整しています。

インタビュー

Q.良かったことを教えてください

入院時の持参薬を当院採用薬へ切り替える際に、薬剤師が介入することで薬剤の規格違いや用法用量の違いを修正し、正しい薬物療法を実施できました。持参薬の持ち込み数や残数を確認しセットすることにより、確実に服用させ、処方依頼もスムーズにできるようになりました。点滴は薬剤によっては輸液ルートに吸着・溶出するものが存在するため、薬剤部で該当する薬剤と輸液ルートとをセットして払い出しています。

Q.今後の展望をお聞かせください

退院時カンファレンスに積極的に参加し、入院中の薬物療法の経過、生理機能、副作用の発現等を、転院先のスタッフと共有することで、薬剤療法の質の向上や患者のQOLに貢献していきます。医師の負担軽減と看護師の指示受け時間に短縮による負担軽減、安全な薬物療法に寄与するために、事前に取り決めたプロトコル（PBPM）に基づく定期処方薬のオーダー代行入力をおこなっていきます。高齢者の unnecessary 多剤投与を医師や看護師と相談しながら、今よりもさらに減らしていきたいです。

の推進

タスク・シフト/シェア(業務の移管/共同)は「従来、ある職種が担っていた業務を他職種に移管すること又は他職種と共同化すること」※1という意味で使用されます。タスク・シフト/シェアの推進は、「患者にとっての利益」を目標に、看護師がその専門性をさらに発揮し、より質の高い医療を提供するためのものです。今年度はこのテーマを中心に、様々な取り組みを情報発信する予定です。初回は県内の三施設にご協力いただき、職種間の協働事例をご紹介します。

※1 出典：日本看護協会「看護の専門性の発揮に資するタスク・シフト/シェアに関するガイドラインおよび活用ガイド」p7

TMGあさか医療センター

●病床数：446床 ●看護職：約600人 ●救急救命士：6人



当院は二次救急医療機関で救急救命士が6名在籍し夜勤も行っている。現在、救急隊との対応から緊急搬送患者の処置など業務を拡大し、ER看護師とタスク・シフト/シェアの推進をおこなっている。

1日の仕事

※看護師と協働している業務

- 8:30 業業務開始
- 8:40 夜勤者からの申し送り
- 8:50 院内救急車・救急バッグ点検
- 9:00 救急搬送件数及び近隣医療機関受入件数のメール配信
- 9:10 入電(看護師又は救急救命士)救急受付
救急搬入準備(ストレッチャー準備・ルート作成・採血ラベル貼り等)
救急搬送患者のバイタル測定
更衣、ルート・採血介助、分注、X-P・CTへの移送
心電図
リカバリー室でのバイタル測定
入院説明 入院病棟へ引継ぎ
- 11:30 休憩
- 12:00 物品補充 酸素ボンベ確認
- 16:00 処置カートチェック及び補充
- 16:15 夜勤者へ申し送りのためにカルテで患者情報把握
- 16:30 夕礼
- 16:45 夜勤者への申し送り
- 17:00 退勤

看護師からの一言

看護係長(ER所属長) 山田 史枝 さん

当院の救急受入は1日あたり約10～15件で、救急救命士と協働して日々業務に取り組んでおります。

昨年4月より救急隊からの入電対応をタスク・シフト/シェアし、これまで看護師のみであった対応を救急救命士も行うこととなりました。その結果、看護業務に集中できスムーズな受入にも繋がっていると感じています。

救急救命士

松本 徹也 さん

業務内容紹介

救急隊からの入電時に看護師が忙しい場合は代わりに対応し、リーダー看護師に報告して医師に確認します。救急搬入準備としてストレッチャー・病衣準備・ルート作成・採血準備、救急患者来院後はバイタル測定・更衣・点滴採血介助、X-P・CTへの移送・入院説明・入院病棟へ引継ぎを看護師と声掛けをしながらおこない、スムーズに治療ができるように対応します。環境整備として、使用した物品や酸素等を看護師と協力して消毒や補充・点検を行い、次の救急搬送の受け入れ体制を整えます。



インタビュー

Q.良かったことを教えてください

ER看護師とタスク・シフト/シェアをおこない救急患者の受け入れ体制を整える事で、以前よりも多くの救急車の受け入れができています。また、処置や検査回りを看護師と協働する事で、患者のER滞在時間が短縮しています。

Q.大変だったことを教えてください

救急救命士は病院によって配属先や行える業務が違うのが現状です。最初はカルテ作成や患者の検査搬送、院内のBLS講習開催等が主な仕事内容でした。その後、ER専属となり、救急入電の情報聴取や搬入後のバイタルチェック、転送(病院車両)、救急搬送状況の把握・評価と業務内容が拡大しました。しかし業務拡大のためには医師や看護師、他職種の救急救命士に対する認知が不可欠であり、認知されるまでが大変でした。

Q.今後の展望をお聞かせください

当院は2015年より救急救命士の採用を開始し、現在では6名まで増員しER全体の強化に努めています。2021年にグループ病院での救急救命士連携会が設置され、グループ内でも業務拡大を検討している現状です。この様にタスク・シフト/シェアを進めている上で業務内容の専門性に伴う責任の所在や指揮系統の整備をしっかりと確立していく必要があります。また、論文投稿、学会参加を後輩にも促す事で救急搬送統計や医療の知識向上に努め、救急件数増加に力を入れていきたいと考えています。

医療法人健仁会 益子病院

●病床数 115床 ●看護職 93人 ●看護補助者 21人



当院は、「医療、保健、福祉で地域社会の皆様の健康長寿に貢献」を理念に、24時間救急体制をとり、地域の皆様の健康を守り、安心・信頼される病院を目指している。看護職は専門職としての誇りを持ちその力をチーム一丸で提供できるよう努め、看護補助者は看護チームの一員としてタスク・シフト/シェアする。その結果、看護師は専門性を発揮した仕事に集中でき、看護の質の向上に繋がっている。

看護補助者は看護チームの一員としてタスク・シフト/シェアする。その結果、看護師は専門性を発揮した仕事に集中でき、看護の質の向上に繋がっている。

1日の仕事

※看護師と協働している業務

〈外来〉

- 8:00 早番業務開始 外来診療準備
環境整備 リネン類補充
- 8:30 日勤業務開始 全体ミーティング
- 9:00 診療ブース患者呼び出し業務
カルテ整理・問診票の記載介助
中材業務 リネン類補充
- 11:45 交代で休憩
- 13:00 診療ブース患者呼び出し業務
中材業務(手術室機械洗浄) リネン類補充
- 17:20 業務終了

〈病棟〉

- 7:00 早番業務開始 夜勤者補助/モーニングケア
- 8:30 日勤業務開始 全体ミーティング
- 8:45 清潔援助・検査送迎・検体運搬・環境整備
- 10:00 遅番業務開始 業務伝達
- 11:45 交代で休憩
- 13:30 オムツ交換・物品補充・清潔援助
- 業務終了 ●早番/15:50 ●日勤/17:20 ●遅番/18:50

- 16:30~翌朝9時 夜勤業務
配膳下膳・配茶・食事介助・口腔ケア・オムツ交換

看護師からの一言

看護師長 上野 香織さん

申し送り前のミニカンファレンスで、行動計画や注意点を情報共有し、適切に役割分担してケアを提供します。協働する上で相談しやすい環境づくりが重要なので、声を掛け合いながら一緒にケアをするように心掛けています。看護師の代わりにできる業務を看護補助者へシフトすることで看護師が専門性をより発揮でき、質の高い看護を提供できています。看護補助者は看護師にとって欠かせないパートナーであり、日々感謝しています。

看護補助者リーダー

鈴木 紀子 さん



(左) 鈴木紀子さん(外来リーダー)
(右) 高橋幸江さん(病棟リーダー)

業務内容紹介

〈外来〉

看護管理者の指導のもと看護補助者も、各診察ブースへの患者誘導、案内を行っています。電子カルテの操作の権限を一部委譲され、患者さんが外来受診をスムーズに行えるよう順番での呼び出し表示対応を実施しています。



〈病棟〉

看護補助者はケア全般を看護師と共に援助します。患者の近くで常に、気配り・日配りを行い、患者の安心・安全に貢献しています。



インタビュー

Q.良かったことを教えてください

患者さんの生の声を聴けること、患者さんやご家族から直接「ありがとう」と言ってもらえた時は嬉しかったです。いち早く患者さんの状態が把握できるのでやりがいにつながっています。医師、看護師から指示をもらい「スムーズに動いている」といわれて良かったと思いました。

Q.大変だったことを教えてください

予約時間が過ぎても診察に呼ばれない患者さんからのクレーム、報告・相談のタイミングがつかめない、診察案内パソコン誘導業務に慣れるまで大変でした。看護師不足で業務量が増加傾向にあります。また、看護補助者リーダーの任命を受けプレッシャーが大きかったです。

Q.今後の展望をお聞かせください

外来担当・病棟担当の看護補助者リーダー同士で連携を図り、看護補助業務が強化できるよう努めていきたいです。看護補助者会の充実、院内・院外への研修へ積極的に参加して、ケア・介助をもっとスムーズにおこなっていきたいです。

Q.一言お願いします

患者や職員から、「目線を合わせて必ず対応している」「親切な対応をしてもらえて感謝している」「同じチームの一員として誇らしい、見習うべきことが沢山ある」などの声が聞かれています。看護補助者の扱いは職員の手本となっています。

アンケートの
お願い

令和5年度の広報誌は、タスク・シフト/シェア推進の現状を知りたいという皆様の声から特集記事を計画しました。皆様のご意見を今後の記事に反映していこうと思います。巻末のアンケートにご感想やご希望をどんどんお寄せください。



看護業務の効率化先進事例アワード2022

最優秀賞受賞

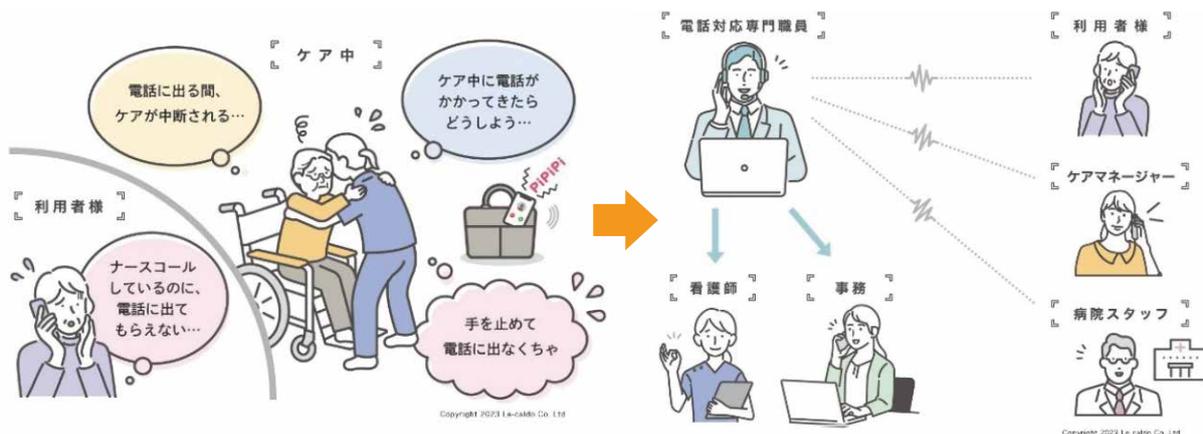
このアワードは、日本看護協会による厚生労働省受託事業の「看護業務効率化先進事例収集・周知事業」として、看護職が勤務している医療・介護保険施設等において、看護業務の効率化に関する優れた成果を上げ、医療・看護ケアサービスの充実を実現した取り組みを募集、2022年は52件の応募があり、その中で最優秀賞を受賞した県内の訪問看護ステーションの事例をご紹介します。

「365日24時間の電話対応専属スタッフによる訪問看護ステーションにおけるタスク・シフト/シェア」
 訪問看護ステーション トータルケア（株式会社Le-caldo、本社：埼玉県所沢市、代表取締役社長：若松冬美）

取り組みの概要

訪問看護ステーションには毎日多くの電話がかかってきます。様々な電話の対応を看護師もしていたことで、看護ケアに集中することが困難なケースが発生していました。また、利用者やその家族から、電話をしてもつながらないことがあり不安との声が聞かれていました。

そこで昨年4月に電話対応専属部署を立ち上げ、各ステーションに専属職員を配置し、看護師が訪問中などに電話対応でケアが中断されないよう、業務に集中できる体制を構築しました。これにより1人あたり平均1日90分の電話対応時間の削減、さらに残業時間は月平均22時間から8.5時間への短縮につながりました。



「タスク・シフト/シェア」への視点

患者への直接的なケアのように

看護師が行わなければならない業務から、看護師でなくとも対応できる業務まで、看護師が行っている場合が多いのです。その中で一部分でも他職種と協同で行える業務がないかという視点で見ると、そこにタスク・シフト/シェアのヒントが隠れているように思います。看護師が看護に集中できる環境整備を進めていくことで、利用者がより質の高い看護ケアを受けられるよう、今後とも尽力してまいります。

これまでの受賞施設の紹介

- 2019年 優秀賞 医療法人社団協友会 メディカルトピア草加病院
 「小規模病院における看護クラーク科の立ち上げ・看護クラークの一元管理による看護師負担軽減」
- 2020年 奨励賞 社会医療法人財団石心会 埼玉石心会病院
 「排尿ケアチームの立ち上げ～患者のQOL向上を目指して～」

令和5年度 埼玉県看護協会通常総会 開催

令和5年度埼玉県看護協会通常総会は、参集開催として行う予定です。参加をご希望の会員の方は、後日、本会HPで公開する申込ページよりお申込ください。必ず事前登録をお願いいたします。当日受付はございません。

日程	令和5年6月17日(土) 9:30 受付 10:00 開始	
場所	埼玉県看護協会研修センター(西大宮)	
参加・質問	本会HP https://www.nurse-saitama.jp 5月17日(水)～5月28日(日)	



※午後には特別講演を予定しております。詳しくは総会要綱をご確認ください。

委任状のご提出にご協力ください

当日ご出席されない会員の方は、必ず委任状のご提出をお願いします。5月の中旬までにお手元に「総会要綱」をお届けしますので、巻末の委任状を期日までに郵送してください。

「看護の日」キャラクター かんごちゃん 埼玉県バージョンが完成しました

「看護の日・看護週間」事業に関する理解や看護の魅力を伝えるメッセンジャーとして活動するキャラクター「かんごちゃん」に、この度47都道府県バージョンが誕生しました。「埼玉県看護協会かんごちゃん」は、特産品である「さつまいも」をあしらひ、可愛らしく活動してまいります。



編集後記 広報委員会

今号では、タスク・シフト/シェア推進の事例紹介として、薬剤師、救急救命士、看護補助者、訪問看護ステーションの方々にお話を伺いました。各病院、訪問看護ステーション内でさまざまな工夫を凝らしながら行われている協働の実態を知ることができました。タスク・シフト/シェアを推進していくためには、関係職種との理解と協力が必要不可欠です。今後もこの広報誌を通じて、病院や施設等で行われている協働に関してご紹介していきます。患者にとってより良い看護を提供するための方法を考える上での一助になればと思っております。末筆になりますが、編集に際しご協力いただきました皆様に感謝を申し上げます。

広報誌「さいたま」135号はいかがでしたか？ アンケートで皆様の声を聞かせてください。奮ってご参加ください。

◆応募締切:令和5年5月31日(水)まで

▼アンケート内容

- 1135号で興味をひかれた記事はありましたか。
- 「タスク・シフト/シェアの推進」について興味はありますか。
- 職場で協働を進めている、または進めたいと思う職種はありますか。
- 職種間の協働でのエピソード(良かった/大変だった等)はありますか。
- 今後、取り上げてほしい記事やテーマはありますか。
- 表紙の案を募集します。推薦する風景 風景以外の案等、応募してください。
- 1135号へのご意見感想をお聞かせください。

回答はこちら



すべての質問に回答しなくても結構ですので、皆様のご意見をどんどんお寄せください。埼玉県看護協会広報委員会は、皆様のご意見を反映した広報誌をめざしています。